

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

＜情報システム科＞

科目名	データベース構築	
担当教員の実務経験	Access等を使用したデータベース構築への従事	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	45コマ ・ 3単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	Microsoft Office Access 2019を使用し、データベース構築と操作を学習します。	
授業の到達目標	Microsoft Office Access 2019を使用した、基礎から応用的なデータベースの構築とデータベースに対する操作ができることを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A(80点以上)・B(60点以上)・C(40点以上)・D(40点未満)とし、授業ごとに提出された演習課題によって評価します。	
準備学習・時間外学習	演習課題の実施が授業時間内に終わらなかった場合は、自己学習によって次回授業までに必ず終わらせておくこと。	
使用教科書・教材・参考書	Access 2019 テキスト 基礎編、Accessによるシステム構築問題集20XX改訂版	
授業上の注意点	MicrosoftOfficeAccess2019を使用します。 授業ごとに与えられた演習課題の実施時間は授業時間数に含めます。	
授業計画（内容）		コマ数
データベース基礎		20
(1)データベースとは		
(2)Accessの基本操作		
(3)テーブルの作成、フィールドプロパティの設定		
(4)クエリ作成		
選択クエリの作成、並べ替え・抽出条件の設定、パラメータクエリの作成、演算フィールドのあるクエリの作成		
(5)フォームの作成		
(6)レポートの作成		
(7)リレーションシップ		
自動結合、手動結合、参照整合性の設定と動作確認、連鎖更新、連鎖削除		
(8)クエリ/レポート応用		
集計クエリ、クロス集計クエリ、不一致クエリ、アクションクエリの作成		
グループ集計レポートの作成		
データベース応用		25
(1)住所管理システムの開発		
(2)メディア管理システムの開発		
(3)売上管理システムの開発		
(4)住所管理システムの開発		
(5)レンタルDVDシステムの開発		
合計		45
授業単位数		3

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング応用 (Java)	
担当教員の実務経験	プログラマ・システムエンジニア	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	36コマ・2単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際にプログラミングで動作を確認しながら、Javaの基本文法からオブジェクト指向プログラミングの初歩 (クラス・インタフェース等) を理解します。 ・ 認定試験「Oracle Java Bronze」の合格を目指します。 	
授業の到達目標	Javaの基本文法やオブジェクト指向プログラミングの考え方を理解し、認定試験「OracleJava Bronze」の合格、または同等のJavaプログラミングに関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	学習に遅延が発生しそうな場合は、授業時間外にも学習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ オラクル認定資格教科書 Javaプログラマ Bronze SE ・ 徹底攻略 Java SE Bronze 問題集 	
授業上の注意点	極力プログラミングで動作確認しながら進めてください。	
授業計画 (内容)		コマ数
Java言語のプログラムの流れ		2
データの宣言と使用		3
演算子と分岐文		3
繰り返し文と繰り返し制御文		3
オブジェクト指向コンセプト		2
クラス定義とオブジェクトの生成・使用		3
継承		3
ポリモフィズムとパッケージ		3
問題演習 (テキスト章末問題、問題集使用)		4
模擬試験		8
プログラミング実習		2
合計		36
授業単位数		2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	プログラミング実践 (Java)	
担当教員の実務経験	民間の情報系企業に勤務し、プログラマ、システムエンジニアとしてシステム開発に従事。	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
授業時間数・単位数	36コマ・2単位 (左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり)	
授業方法	講 義 [O] ・ 演 習 [] ・ 実 習 [O]	
授業の概要	Javaプログラミング・コーディングの実技を通して、Javaの概要を理解するとともに、オブジェクト指向プログラミングの考え方を学びます。 現在、情報系企業でシステム開発に携わっている講師が、企業でのICT活用の実態や経験も伝えながら、学生に仕事のイメージを持たせます。	
授業の到達目標	様々なプログラムを実際に作成し、実践に役立つコーディング技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A (80点以上) ・ B (60点以上) ・ C (40点以上) ・ D (40点未満) とする。プログラミング課題、出席率、成果 (達成目標) 等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	プログラミング課題の進捗によっては、授業時間外にも課題を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	独自制作テキスト	
授業上の注意点		
	授業計画 (内容)	コマ数
基礎プログラミング	基礎的な制御文・データ型の理解	4
CUIプログラミング①	ソースファイルの分割	4
CUIプログラミング②	入力に応じた結果出力	4
CUIプログラミング③	配列を利用した結果作成	4
CUIプログラミング④	プログラムの機能拡充	4
GUIプログラミング①	GUIプログラミング基礎	2
GUIプログラミング②	キー入力に応じた制御方法	4
GUIプログラミング③	状況に応じたウィンドウ制御	4
GUIプログラミング④	用途に応じたGUIパーツの活用	4
GUIプログラミング⑤	メニューバーを持つ「フリーブック」の制作	2
※現在、プログラミング環境の変更検討中のため、内容が変更となる可能性があります。		
	合計	36
	授業単位数	2

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	Linux実習	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	14コマ・1単位	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 [○]	
授業の概要	電子開発学園メディア教育センターのLinuxサーバを、インターネット経由で実際に操作します。シェルプログラミング、ファイル管理、Viエディタなど一般ユーザによるコマンドで、実習を中心に使える技術を身に付けます。	
授業の到達目標	実習をととして Linux の基本的な操作を習得すること、シェルプログラミングが使えることを目標にします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。実習課題や科目試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	メディア教育センターのサーバは翌年2月末まで24時間接続可能ですので、授業時間外でも実習が可能です。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書「イラストでそこそこわかるLinux（翔泳社）」 ・[参考図書]日経リナックス（日経BP社） 	
授業上の注意点	毎回、実習課題、確認問題、演習課題を用意します。	
	授業計画（内容）	コマ数
	Linuxの概要ほか	1
	ユーザ管理	1
	プロセス	1
	ファイルシステムほか	1
	パーミッション	1
	シンボリックリンクとパス指定	1
	エディタ（1）	1
	エディタ（2）	1
	ネットワーク関連コマンドほか	1
	シェル	1
	シェルの操作	1
	シェルスクリプト	1
	総合実習	1
	科目試験	1
	合計	14
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	セキュリティ応用	
対象学生	情報システム科2年、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	14コマ・1単位	
授業方法	講義 [○] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	インターネットユーザ、サーバ管理者としてのセキュリティ対策を学習します。また企業としてのセキュリティポリシー策定手順とその要点を学習します。講義ではニュースや事件をとりあげてWeb改ざんやプライバシー情報の流出が企業の信用に与えるダメージを説明するとともにその対策をあげていきます。不正アクセスや内部犯行の手口を知り、企業がとるべき対策を考えていきます。	
授業の到達目標	インターネットユーザ、サーバ管理者としてのセキュリティ対策を理解し、実際に生かす能力を修得することを目標とします。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。科目試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	セキュリティ応用（SCC）	
授業上の注意点	毎回、確認問題を用意します。	
授業計画（内容）		コマ数
アプリケーションセキュリティ		1
認証技術とパスワード管理		1
人為的脆弱性		1
マルウェア対策		1
暗号方式とPKI		1
組織的情報セキュリティ対策		1
リスク評価とリスク処理		1
情報セキュリティを脅かす騙しの手口		1
攻撃と侵入		1
技術的セキュリティ対策		1
セキュリティ応用技術1		1
セキュリティ応用技術2・情報セキュリティマネジメントシステムと評価		1
有線/無線LANと携帯端末のセキュリティ		1
科目試験		1
合計		14
授業単位数		1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	英語Ⅱ	
対象学生	経営情報科	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	英語の読解力を養成する。英文の構造、文法や構文、単語や熟語等の英文を構成する要素を理解できるように繰り返し読む。世界的に有名なアメリカの事物、人物に関する英文を読むことで、英文を読むことを楽しんでもらいたい。	
授業の到達目標	英語の読解力の向上を目指し、辞書に頼らずともおおよそのイメージがつかめる読解力を身につけること。	
成績評価方法と基準	出席状況、授業への参加意欲、及び科目試験の成績により評価する	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書	『Iconic America (知られざるアメリカの今)』 Jeffrey Miller、萱 忠義 成美堂	
授業上の注意点		
授業計画 (内容)		コマ数
Unit1	College Sports: Multibillion Dollar Amateurs	1
Unit2	The rise of the Megachurches	1
Unit3	The Dream of a Colorblind America	1
Unit4	America: A bilingual Country?	1
Unit5	Steve Jobs' Legacy	1
Unit6	Disney and Marvel: The Little Mermaid Meets the Incredible Hulk	1
Unit7	The Appeal of Aloha	1
Unit8	New York City: Tragedy, Energy, and Optimism	1
Unit9	Los Angeles: America' s Most Creative City	1
Unit10	The Grand Canyon: Conservation vs. Development	1
Unit11	Starbucks: The Third Place	1
Unit12	Hip Hop: From the Ghetto to the Mainstream	1
Unit13	Amazon.com	1
Unit14	From Wild Child to Goodwill Ambassador	1
Unit15	Facebook: An Almost-Global Phenomenon	1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	応用情報対策講座	
対象学生	情報システム科、経営情報科	
実務経験		
授業時間数・単位数	105コマ・7単位（左記を標準とし、個々の学生の状況により変更あり）	
授業方法	講 義 [○] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	情報処理技術者試験の応用情報技術者試験で問われる知識・技術を、講義動画によるテキスト学習・問題演習を通して身につけ、更に過去問題や模擬試験により理解を深め、試験合格を目指します。	
授業の到達目標	応用情報技術者試験の合格、または同等の情報処理に関する知識・技術を身につけます。	
成績評価方法と基準	成績評価基準は、A（80点以上）・B（60点以上）・C（40点以上）・D（40点未満）とする。検定試験・模擬試験結果、出席率等を総合的に判断して評価します。	
準備学習・時間外学習	授業時間だけでは問題演習時間が不足するため、授業時間外でも問題演習を行う必要があります。	
使用教科書・教材・参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応用情報技術者試験対策テキストⅠ・Ⅱ・Ⅲ、ニュースペックテキスト ・ 応用情報技術者試験午前問題集・午後問題集、過去問題集 	
授業上の注意点	受講前に午後基礎講義及び午前問題演習が一通り終了していること。	
授業計画（内容）		コマ数
授業オリエンテーション		2
午前問題演習		10
午後実践講義（全6分野）		28
午後問題演習		25
模擬試験 1		8
模擬試験 2		8
過去試験問題 1		8
過去試験問題 2		8
過去試験問題 3		8
	合計	105
	授業単位数	7

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	情報システム学概論Ⅱ	
対象学生	経営情報科	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講義 [] ・ 演習 [○] ・ 実習 []	
授業の概要	e-ビジネスやビジネスインテリジェンスなど情報技術の戦略的な応用分野と“ヒト・モノ・カネ”に関する情報システムの特徴にはどのようなものがあるかをみていく。IT の高度利活用が、企業の競争優位性の確立につながることを学ぶ。	
授業の到達目標	企業の基幹業務を支える情報システムの特徴をおさえ、ビジネスインテリジェンス、e-ビジネス、ERP、TCO などIT の高度な利活用が、企業の競争優位性と深く関わっていることを理解することを目標とする。	
成績評価方法と基準	出席状況、授業への参加意欲、及び科目試験の成績により評価する。 A:80～ B:60～79 C:40～59 D:40未満	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
授業計画（内容）		コマ数
情報システムの概観		1
e-ビジネスの形態		1
ナレッジマネジメント		1
グループウェア		1
データマイニング		1
知識ベースシステム		1
経営情報システム		1
マーケティング情報システム		1
人事情報システム		1
製造業における情報システム		1
財務情報システム		1
ERP		1
TCO		1
情報システム開発の必要性		1
まとめと問題演習		1
	合計	15
	授業単位数	1

授 業 概 要

秋田情報ビジネス専門学校

科目名	食と健康情報	
対象学生	経営情報科	
授業時間数・単位数	15 コマ	1 単位
授業方法	講 義 [] ・ 演 習 [○] ・ 実 習 []	
授業の概要	高齢化に伴い、生活習慣、特に食習慣に起因した疾患が注目されている。糖尿病、肥満、がん、消化器疾患の多くは、食習慣が関連していることを理解する。さらに食材に含まれる機能性成分や基本的な食品の加工技術についても学ぶ。	
授業の到達目標	食習慣と病気の関連について理解できるようになることを目標とする。	
成績評価方法と基準	出席状況、授業への参加意欲、及び科目試験の成績により評価する。 A:80～ B:60～79 C:40～59 D:40未満	
準備学習・時間外学習		
使用教科書・教材・参考書		
授業上の注意点		
	授業計画（内容）	コマ数
	食事による病気の予防	1
	食欲の制御	1
	食習慣と糖尿病	2
	食習慣とがん	2
	食習慣と消化器疾病	1
	食習慣と肝疾患	1
	食習慣と骨粗しょう症	1
	機能性食品の開発	2
	食品加工と栄養	2
	食品の栄養と機能性	1
	まとめと演習	1
	合計	15
	授業単位数	1

